

第1学年 国語科学習指導案

単元名：竹取物語

指導者：

- 1 日 時 : 令和 4年11月2日(水) 第3校時
- 2 場 所 : 1年 1組 教室
- 3 学年・学級 : 第1学年 1組(32名)
- 4 単元名 : 竹取物語

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領〔知識及び技能〕(3)ア「音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典に親しむことができる。」及び、〔思考力、判断力、表現力〕Cイ「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。」を主なねらいとしている。

本教材は、生徒が中学校で初めて本格的に学習する古典教材である。また、「かぐや姫」の物語として、絵本やアニメーションなどで広く知られている作品であり、古典の導入の教材として親しむことができる作品である。現存する最古の物語として現在までの長い間読み継がれ、語り継がれている魅力に気付かせたい。さらに、物語を読み進めていく中で、多様な人間模様や相互関係の在り方、人間の傲慢さやずる賢さ、また誠実さや愛情などについて現代との共通点や相違点などを捉えさせることで、古典に親しむを持たせるだけでなく、自分自身のものの見方や考え方を広げることができる教材である。

(2) 生徒観

本校1年生の4月に行ったNRTの結果は標準偏差値平均49.9であり、全国平均を少し下回っている。「話すこと・聞くこと」については全国平均を上回っているが、「書くこと」と「読むこと」については全国平均を下回っている状況にある。特に、「目的に応じて工夫して書く」ところや「考えや感想をまとめ伝え合う」ところでつまずきがある。

また、前作品「玄関扉」では、三角ロジックを活用して主張を支えるための根拠を明確にする学習したが、問題の捉え方や答え方があいまいで、主張と根拠の結びつきが弱い。2学期中間試験の問題においても、正解率が10パーセントしかなかった。

さらに、古典に対しては、小学校で音読や暗唱を経験しているが、歴史的仮名遣いや内容について詳しく学習することについては入門段階であるため、難しさを感じる生徒がいると予想される。

(3) 指導観

指導に当たっては、古典のリズムを親しむことができるように全体での音読や個人やペアなどによる音読練習を取り入れ、歴史仮名遣いや古文特有の言い回しなどに慣れさせる。また、物語の中の描写や表現、使われている言葉や登場人物の行動に着目することで、それらを根拠に登場人物の心情を捉えるとともに、昔のものの見方や考え方を捉えながら、現代の自分における共通点や相違点などについて学びを深めたい。その際、個の学びと集団の学びを適宜取り入れて学びの深まりを図る。

さらに、「竹取物語の魅力を考える」を、単元を貫く課題として設定し、独りよがりの考えにとどまるのではなく、学習してきたことを基に、長い間語り継がれてきた物語の魅力や人々を魅了するものについて、根拠を明確にして伝え合い、まとめる学習を行う。

(4) 本単元において育成しようとする資質・能力

本校で育成しようとする資質・能力は以下の4点である。

【知識及び技能】			
【思考力, 判断力, 表現力等】	① 伝える力	② 問題解決能力	
【学びに向かう力, 人間性等】	③ 協働する力	④ 公共心	

この中から、本単元で育成しようとする資質・能力は次の2点に重点を置くものとする。

【思考力, 判断力, 表現力】 ①伝える力 ②問題解決能力

- ・さまざまな場面の登場人物の行動やその理由, 情景描写の言葉に注目し, 心情の変化を読み取る。また, そこから自分がどのように作品を捉えたのか, 根拠を明確にして作品の魅力について伝えている。

5 単元の目標と評価規準

○ 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り, 古文を音読し, 古典特有のリズムを通して, 古典に親しむことができる。 [知識及び技能] (3) ア
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力] C (1) イ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えを確かなものにすることができる。 [思考力, 判断力, 表現力] C (1) オ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝えようとしている。 「学びに向かう力, 人間性等」

○ 単元の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り, 古文を音読し, 古典特有のリズムを通して, 古典の世界に親しんでいる。	①場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えを確かなものにしている。	①積極的に古文を音読し, 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉え, 学習の見通しをもって, 竹取物語の魅力について考えようとしている。

6 指導と評価の計画 全5時間 (本時は4/5)

◎ 単元観・生徒観・指導観を踏まえ, 評価の場面や評価方法を計画する。

次	学習内容 (時数)	評価					
		知技	思判表	主体	評価規準	評価方法	資質・能力 (評価方法)
1	○文語の決まりや訓読の仕方を確認するとともに, 作	◎			[知技] ①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り, 古文を音読し, 古	ワークシート	

	品の大まかなあらすじを確認する。 (1) ○冒頭部分を音読し、かぐや姫の誕生の古典特有のリズムに親しむ。 (1)		◎	典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 〔思判表〕①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。		
2	○くらもちの皇子の内容や場面の工夫、そのほかの四人の貴公子の求婚の場面の面白さを考える。(1)		◎	〔思判表〕①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。	ワークシート 行動観察	②問題解決能力 (ワークシート)
	○三～五の場面における登場人物の心情と行動について考える。(1) (本時)		◎	〔思判表〕①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。	ワークシート 行動観察	②問題解決能力 (ワークシート)
3	○これまで学習したことを基に、「竹取物語」の魅力を考え、根拠を明確にしてまとめる。		◎	〔思判表〕②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 〔主体〕①積極的に古文を音読し、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもって、竹取物語の魅力について考えようとしている。		①伝える力 (ワークシート) ②問題解決能力 (ワークシート)

7 本時の展開

(1) 本時の目標

登場人物の言動や描写に着目し、それぞれの悲しみについて理解することができる。

(2) 観点別評価規準

◎ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。

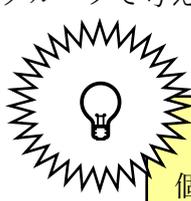
評価方法：ノート、ワークシート、行動観察

(3) 育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評価基準（例）
②問題解決能力	<p>A 登場人物の言動や描写を基に、帝がなぜ手紙と不死の薬を燃やしたのか読み取り、本文の言葉を根拠として活用してまとめることができる。</p> <p>B 登場人物の言動や描写を基に、帝がなぜ手紙と不死の薬を燃やしたのか読み取り、まとめることができる。</p> <p>C Bを満たしていない。</p>

(4) 準備物：教科書，ノート，ワークシート，Chromebook，補足資料

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 ☆資質・能力 （評価方法）
導入	<p>○古文の音読練習を行う。</p> <p>○帝の最後の行動について確認する。</p> <p>課題の設定</p> <p>○本時の目標の確認</p>	<p>・音読部分を指定し、ペアで練習をする。</p> <p>・大切な人からの贈り物を自分だったらどうするか比較しながら考える。</p>	
<p>【本時の目標】 帝の行動から、かぐや姫への思いを考える。</p>			
展開	<p>○かぐや姫・翁媪の心情を捉える。</p> <p>○帝がなぜかぐや姫からの手紙と不死の薬を山の頂上で燃やしたのか、個人で考える。</p> <p>○グループで考え、まとめる。</p> <p>整理・分析</p> <p></p> <p>【主体的・対話的な学びの時間】 個人で考えた帝の思いをグループで伝え合い、まとめる。</p> <p>○全体で交流する。</p>	<p>・どちらも深く悲しんでいることを抑える程度にとどめる。</p> <p>・本文に書かれてある帝の言動をヒントに思いを考える。 ◆机間支援をしながら、思考が難しい生徒には、本文のヒントとなる語句を示す。</p> <p>・それぞれのグループの意見をホワイトボードに書く。</p>	<p>○場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>☆問題解決能力 （ワークシート） 登場人物の言動や描写を基に、帝がなぜ手紙と不死の薬を燃やしたのか読み取り、まとめることができる。</p>

ま と め	<p>○学習課題に対する答えをまとめる。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">まとめ・創造</p> <p>○振り返りを行う。</p>		
-------------	---	--	--

(6) 板書計画

